

# 01 | ごあいさつ



阪急電鉄株式会社  
取締役社長 嶋田泰夫

平素から、当社の鉄道事業に対しご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

依然として新型コロナウイルス感染症の脅威が残るものの、これまでに蓄積してきたエビデンスに基づいた実効性ある感染対策を講じながら、社会経済活動を継続することが模索されつつあります。そうした中で、当社は、公共交通機関として安定的な輸送サービスを提供するとともに、お客様に安心してご利用いただけるよう、車両の抗ウイルス加工や換気機能の向上など、様々な対策を実施してきました。これからも、感染拡大の防止に向けて最善を尽くしてまいりますので、皆さまにおかれましても、引き続きご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

一方、昨年度は鉄道車内における傷害事件が立て続けに発生し、このような非常時の車内状況の早急な把握や、お客様の安全な避難誘導という新たな課題が顕在化しています。当社では、非常通報装置など、緊急事態においてお客様にご使用いただきたい設備の位置を明示するとともに、ポスター等によりお客様へその使用方法や注意事項を周知いたしました。あわせて、車内防犯カメラの設置に向けた検討を進めています。

また、近頃は甚大な自然災害が毎年のようにどこかで起こっています。このことから、当社では、自然災害に起因する様々なリスクを極力小さくすべく、防災・減災に向けた工事をハイピッチで推し進めるとともに、万一の時に迅速な避難誘導やタイムリーな情報提供などお客様に適切な対応ができるよう、懸命に取り組んでいるところであります。

このような事業の継続を脅かすリスクについては、安全・安心の確保はもちろんのこと、社会からの多様な要請にできる限り応えられるよう、今後とも全力を傾注してまいります。

さて、当社では、従前から輸送の安全確保を第一義に考え、経営トップが主体的に関わりながら、責任事故の撲滅に取り組んでいます。2021年度におきましては、駅ホームにおける安全性を向上させるため、春日野道駅においてホームドアの設置工事に着手するとともに、駅・高架橋等の耐震補強やトンネル・架道橋等の補修のほか、新造車の導入や車両のリニューアル工事など、施設や車両の老朽化対策を推し進めました。

一方、ソフト面では、サポートの必要なお客様への従業員によるお声がけや見守りを徹底することにより駅ホームにおける安全性を一層向上させるとともに、想定を事前に伝えない異常時対応訓練の実施等を通じて、従業員の対応力・資質の向上に努めました。また、事故・インシデント等に繋がるヒューマンエラーを惹き起こさないよう、基本動作の励行や作業手順の厳守等を徹底する職場風土の醸成に取り組むとともに、絶対に事故を起こさないという強い信念を持った人材の育成に注力しました。

2022年度におきましても、決して現状に満足することなく、新たに策定した安全重点施策に基づき、鉄道輸送の安全性をスパイラルアップさせるよう、最大限の努力を払ってまいります。

そして、今後も皆さまのご理解とご協力を賜りながら、会社を挙げて、より充実した安全管理体制の構築に尽力し、さらに安全性の高い鉄道会社を目指してまいります。

この安全報告書は、鉄道事業法第19条の4項に則り、輸送の安全確保のための取組等を広くご理解いただくために公表するものです。皆さまにおかれましては、本報告書をご高覧いただき、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせくださいますよう、よろしくご意見申し上げます。

以上